



カティア・ルンド 『シティ・オブ・ゴッド』 / ブラジル



ジョーダン・スコット & リドリー・スコット 『グラディエーター』 / イギリス



スパイク・リー 『マルコム X』 / アメリカ



エミール・クストリツァ 『アンダーグラウンド』 / セルビア・モンテネグロ



メディ・カレフ / アフリカ



ステファノ・ヴィネルツォ / イタリア



ジョン・ウー 『フェイス/オフ』 / 中国



薬品を持って自活する兄妹、今日も堂々として歩いている。



地球上で消えない紛争、彼らは生きるために助け合う。



HIVの両親と娘の、愛情と苦悩、そして再出発。



盗みでしか生きられない親と子の、どこか滑稽な愛情話。



マシンガンを持ちしめる少年兵の、それでも無垢な瞳。



大人たちと互角に渡り合う、容姿も勝さない子供たちの夢と現実。



路上で働く孤児と豊かに暮らす少女、それぞれの哀しみと希望。

かつて子供だった、7つの国の監督たちが贈る

それでも 生きる 子供たちへ

提供 / 配給：ギャガ・コミュニケーションズ **GAGA** GAGA MUSEUM 宣伝：ギャガ宣伝 [ゼロ] × maison こども bureau
後援：財団法人日本ユニセフ協会、WFP 国際連合世界食糧計画、イタリア大使館 原題：All the Invisible Children/2005年/イタリア-フランス映画
上映時間 130分 / ビスタ / ドルビーデジタル / カラー / 字幕翻訳：関 美冬 / PG-12 kodomog.yyao.jp

MK FILM PRODUCTIONS
IN CO-PRODUCTION WITH RAI CINEMA
PRESENTS
AN ORIGINAL IDEA BY CHIARA TILES
PRODUCED BY MK FILM PRODUCTIONS IN CO-PRODUCTION WITH RAI CINEMA, PRODUCED BY MARIA GRAZIA CUCINOTTA, CHIARA TILES, STEFANO VENERUSO WITH MK FILM PRODUCTIONS IN CO-PRODUCTION WITH RAI CINEMA
ASSOCIATE PRODUCING GAETANO DANIELE, ANNA RITA DELL'ATTE, CESARE FALLETTI DI VILLA FALLETTO, ANDREA PIEDIMONTE
REALIZED WITH THE SPECIAL SUPPORT OF THE ITALIAN DEVELOPMENT COOPERATION MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS IN FAVOR OF UNICEF AND WORLD FOOD PROGRAMME THANKS TO THE CONTRIBUTION OF UNICREDIT GROUP
A FILM DIRECTED BY MEHDI CHAREF, EMIR KUSTURICA, SPIKE LEE, KATIA LUND, JORDAN SCOTT & RIDLEY SCOTT, STEFANO VENERUSO, JOHN WOO
© 2005 MK FILM PRODUCTIONS S.R.L. RAI CINEMA S.p.A.





地球の希望は、この子供たちだ。

それでも 生きる 子供たちへ



カティア・ムンド
[シタイ・ネブ・ゴッド]
ブラジル



ジョーダン・スコット&リドリー・スコット
[クランドイーター]
イギリス



スパイク・リー
[マルコムX]
アメリカ



エミール・クストリツァ
[アンダーグラウンド]
セルビア・モンテネグロ



メディ・カレフ
ルワンダ



スタファノ・ヴィネルツォ
イタリア



ジョン・ウー
[フェイス・オブ]
中国



提供 / 配給：ギャガ・コミュニケーションズ **GAGA GAGA USEN** 宣伝：ギャガ宣伝 [ゼロ] × maison こども bureau 後援：財団法人日本ユニセフ協会、WFP 国連世界食糧計画、イタリア大使館
原題：All the Invisible Children/2005年/イタリア・フランス映画 上映時間 130分/ビスタ/ドルビーデジタル/カラー/字幕翻訳：関 美冬 / PG-13 kodomo.gyao.jp

MK FILM PRODUCTIONS IN COPRODUCTION WITH RAI CINEMA PRESENTS

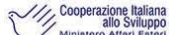
AN ORIGINAL IDEA BY CHIARA TILESÌ

PRODUCED BY MK FILM PRODUCTIONS IN COPRODUCTION WITH RAI CINEMA PRODUCED BY MARIA GRAZIA CUCINOTTA, CHIARA TILESÌ, STEFANO VENERUSO FOR MK FILM PRODUCTIONS IN COPRODUCTION WITH RAI CINEMA

ASSOCIATE PRODUCERS GAETANO DANIELE, ANNA RITA DELL'ATTE, CESARE FALLETTI DI VILLA FALLETTO, ANDREA PIEDIMONTE

REALIZED WITH THE SPECIAL SUPPORT OF THE ITALIAN DEVELOPMENT COOPERATION, MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS IN FAVOR OF UNICEF AND WORLD FOOD PROGRAMME THANKS TO THE CONTRIBUTION OF UNICREDIT GROUP

A FILM DIRECTED BY MEHDI CHAREF, EMIR KUSTURICA, SPIKE LEE, KATIA LUND, JORDAN SCOTT & RIDLEY SCOTT, STEFANO VENERUSO, JOHN WOO © 2005 MK FILM PRODUCTIONS SR RAI CINEMA SPA





I N T R O D U C T I O N

スラムは遊び場に。
 ゴミ捨て場は冒険の場に。
 まだこの世界に、
 希望はある。

**厳しい現実の中、それでも生きる子供たちの輝く生命力。
 数々のエンタテインメント作品を世に送り続けてきた巨匠たちが贈る、
 心の底があたたかくなる、生きる強さを与えてくれる、そんな7つの物語。**

両親の別離、ストリートチルドレン、HIV 胎内感染、少年兵士など、7つの国の子供たちの現実を、7つの国の監督たちがドラマチックに描く。子供時代ならではの恐れを知らない逞しさと、劣悪な状況をも新鮮な遊び場にしてしまう想像力。大人だったらくじけてしまうような絶望的な時も、ただひたむきに今日を生きる純粋な表情。7つの国の監督たちは、子供というなものにも代え難い存在に敬意を表し、大人の視点から哀れむことをしなかった。それぞれの故郷が抱える問題を、子供の目線と感受性を表現した結果、観客の問題意識を強く揺さぶりながらも、観るものすべての胸を打つドラマが誕生した。

斬新な企画に、奇跡のコラボレーション！

**破天荒な行動で知られるクストリツァ監督。彼は本作への参加の理由を「金のためだ」と断言する。
 「・・・ただし、子供たちのためのね。」**

全く異なった個性を持つ、経験豊富な監督たちが参加しているにも関わらず、本作が一つの映画作品として、一貫した感動を観るものに与えるのは、プロデューサーの力量によるところも多いだろう。企画の発端は2002年9月、イタリアの有名な女優でありWFPの飢饉撲滅大使でもあるマリア・グラツィア・クチノッタは、キアラ・ティレンとその友人でイタリアバートを監督したステファノ・ヴィネルツォとともに、世界中の子供たちの窮状を救うため、社会の意識を高め責任感を喚起する手段となりうる映画を企画しようとした。共同製作者のアンナリータ・デルラッテ、アンドレア・ビエディモンテも共に本作の実現のために尽力。また、世界の子供たちの保護を訴える国連の二つの機関、ユニセフ、WFP 国連世界食糧計画も、その威信を持ってこの企画に大きな役割を果たす。そうして素晴らしい才能が集い、子供たちの未来に確かな希望を感じさせる名作を生み出した。

そして、日本公開のための権利料を含む製作会社のMKフィルムプロダクションズが得る本作の収益は全額、ユニセフ及びWFP 国連世界食糧計画に寄付され、二つの機関により世界の子供を救う助けのため活用される。

この企画のために集まったのはあらゆるボーダーを超えて、現代を代表するクリエイターばかり。カンヌ映画祭バルムドールに輝いた「アンダーグラウンド」(95)をはじめ、人間の本質を鋭く描きながらもユーモアを忘れないエミール・クストリツァ。「シティ・オブ・ゴッド」(02)でフェルナンド・メイレスと共に共同監督を務めたカティア・ルンド。ビル・クリントン前大統領も絶賛した拳銃の不法所持を描いた公共広告で評価を得たジョーダン・スコットと、「グラディエーター」(00)など名実共にハリウッドを代表する監督リドリー・スコットのコンビ。「マルコム X」(92)をはじめインテリジェンスと爆発力が共存し、社会性・メッセージ色の強い作品を常に世に送り続けるスパイク・リー。「男たちの挽歌」シリーズから「M:I-2」(00)まで、香港からハリウッドに渡って大成功を取ったジョン・ウーなど、各国の映画の巨匠たちが描くストーリーは、世界の人々の良心に問題の重要性を強く訴えかける。

子供たちの未来のために、大人たちができること。

子供たちという、この地球の希望。彼らの未来を守るためにどうしたらいいのか。こういった問題に真剣に取り組むファッションメゾンやアーティストたちが近年増えてきている。

グッチは昨年末、冬のラグジュアリーコレクションの売り上げの20%をユニセフに寄付するという世界キャンペーンを実施。ジョルジオ・アルマーニ、Gap、コンパースなど多数の企業がプロダクトREDに参加している。(ロゴ入り商品販売収益の一部を世界基金に寄付。資金はアフリカでの女性と子供に焦点を当てたエイズ対策支援に活用される)

またセレブリティたちは自分たちの知名度をチャリティに積極的に活用。アンジェリーナ・ジョリーがUNHCRの親善大使を務めたり、社会活動家としても名高いアーティストU2のボノが、発展途上国救済のため、デザイナーの妻と新ブランド「Edun」を立ち上げた。

子供のころからチャリティについての教育を受け、富める人のステイタスとしてチャリティ活動が確固たる地位を築いている欧米を中心に定着しつつあるこういったムーブメント、いじめが社会問題化し、連鎖的な自殺まで巻き起こる現在の日本の私たちは、今希望に輝く子供たちの未来を描くことができるだろうか。

マシンガンを取りしめる少年兵の、それでも無垢な瞳。

『タンザ』 TANZA

監督：メディ・カレフ / アフリカ

S T O R Y

夜明けと共に走り出す子供たち。その手には、明らかに見合わない大きさの銃があった。少年たちはルワンダで「自由」の名の下に強制的にゲリラ部隊に入隊させられた。その中の一人、タンザはまだ12歳。スニーカーが一番の自慢だ。親友が銃撃戦に倒れても、彼らの戦いは終わらない。真夜中、時限装置の付いた爆弾を持って建物に侵入するタンザ。彼の無垢な瞳の目の前に映った標的は、自分が憧れる学校の教室だった。



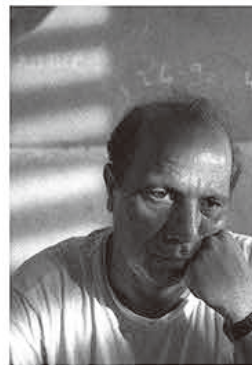
P R O D U C T I O N N O T E

—彼らは、戦争へ行くことが誇らしく、喜ばしく、手榴弾や銃をもらうことがプレゼントだと思っているんだ。そんな世界に心が痛むよ。

メディ・カレフは、自身の少年時代の記憶を映画で描写している。「子供の頃、僕の父は僕とそして兄弟たちを残し、フランスへ職探しに行っていた。そして僕が10歳のとき、父は僕ら家族をフランスに呼び寄せ、パリ郊外のスラムに形成された複雑な移民世界で生活することになった。僕たちは、まさに“存在を忘れられた子供たち(インビジブル・チルドレン)”のようだったよ。僕たちの文化は破壊され、フランスの歴史の授業はあっても母国の歴史は何も教えられないという状態だった。フランスの支配下に置かれるまで、アルジェリアは存在しない国のような印象を受けたよ。僕たちの存在を認め、僕たちの歴史、僕たちの歴史、そして祖先の話をしてくれる日を望みながら育った。だから僕はこの企画に興味を持ったんだ。子供たちが戦わねばならない理由に目を向けてもらうためにもね。」

タンザ役を、おそろべきリアリズムをもって演じるのは、アフリカ人少年ピラ・アダマ。メディが街を歩いているときに見出した少年である。「映画に登場する子供は皆、僕が街で見つけてきた子供達だ。僕は街を歩きながら、役に相応しい顔を探るのが好きなんだ。」と、メディは笑う。採用された6人は1ヶ月間撮影に入るが、両親が仕事をもっているという恵まれた家庭の出身は一人もいなかった。「彼らの収入は両親の助けにはなはずだ。不思議なことに、子供たちのほうが親より多くの希望を持っていた。」と切なそうに付け加える。

メディは、この作品を通して願う。「こんな風に戦いつづけている子供たちがいるということ、人々に知ってもらいたい。彼らの多くが親を虐殺され、自分自身のアイデンティティを求めている。ヨーロッパの何ん自由ない子供とは全く違う。僕はこの映画を通して、そこで生きる子供たちのことを語る機会を持ってとても嬉しい。戦争へ行った子供たちはまだ十分な年齢に達していなかったし、彼らは、戦争へ行くことが誇らしく、喜ばしく、手榴弾や銃をもらうことがプレゼントだと思っているんだ。そんな世界に心が痛むよ。それも、僕がこの映画を作った理由のひとつだ。」



メディ・カレフ

1952年、アルジェリア、マグニア生まれ。小説家・演出家として、執筆活動をしてきたが、83年の小説『Le The au harem d'Archimede (ハーレムでお茶を)』が、コンスタンティン・コスタ＝ガウラス監督の下で映画化され、フランスの荣誉あるセザール賞、マドリッドで作品賞、カンヌ国際映画祭ユース賞をはじめ多くの賞を獲得した。さらに『Au Pays des Julietts』(未)が1992年カンヌ国際映画祭コンペティション部門に出品され、エキュメニカル賞を受賞。『ケルトゥムの娘』は02年トロント国際映画祭公式選定部門に出品され、活動の幅を広げている。

『ケルトゥムの娘』(01)
 『Marie-Line』(未・00)
 『Au Pays des Julietts』(未・92)
 『Camomile』(未・88)
 『Miss Mona』(未・87)

盗みでしか生きられない親と子の、どこか滑稽な叙情詩。

『ブルー・ジプシー』 BLUE GYPSY

監督：エミール・クストリツァ / セルビア・モンテネグロ

S T O R Y

窃盗の罪で投獄された15歳のマルヤン。出所を目前に控えた少年院で、悪童たちとの最後の時間を楽しんでいた。出所したら理髪店で働く、それが彼の淡い夢だ。しかし頭をよぎるのは、娑婆での非情な過去。彼の父は窃盗団で、子供たちに盗みを強要していたのだ。ハッピーな看守と所員たちの歌声に乗って迎えに来た父と家族たちは、看守たちに自転車など豪華な贈り物をし、院を出たまでは良かったが、窃盗団家族の大暴れは再び始まるのだった。以前と何も変わらない家庭の状況にマルヤンがとった行動とは――。



P R O D U C T I O N N O T E

—この子供たちにとっての自由は、実は僕たちが考えている自由と反対の意味を持つてるんだ。

エミールは長年ボスニアで暮らしてきたが、戦争で祖国を失うことになる。「僕は人の実体験を信じている。僕の祖国のように問題の多い国では世間から存在を忘れられた子供たちが多くいるが、そんな子供たちを浮き彫りにしたいと告げられたとき、この企画に参加できることを光栄に感じた。」

彼の描く中心人物たちは、道徳心に欠けるアウトロー、思いがけず暴乱分子となった人間、振り回される子供たちなど、社会からドロップアウトした存在であることが多い。

彼は、少年～青年期を刑務所で過ごした人の大半が大人になっても犯罪を繰り返すことを、常々不思議に感じていた。「彼ら子供たちにとっての自由は、僕たちが考えている自由と反対の意味を持つということを知った。彼らは金を使い果たしたときや冬の寒い季節には、軽犯罪を犯すことで刑務所に戻ろうとするからだ。僕は自由よりも刑務所を好む社会的レベルの人があまりに多いことに驚き、これがきっかけで、『ブルー・ジプシー』という映画を、自分なりのやり方で作るべきだと思うようになったんだ。」主人公マルヤンを演じるのは、エミール自身が見つつけてきた若い俳優である。「偶然出会った入道映画は作られるのだと僕は考えている。この少年は、ベテランの小道具さんを通じて見つけたんだ。」彼が映画の他に情熱を注いでいるのが音楽であり、この映画の音楽も、今や「エミール・クストリツァとノン・スモーキング・オーケストラ」として知られるクストリツァ自身のジプシー・テクノ・ロックバンドが提供している。

この映画を作ることで、最も取り上げられなかった問題は、「自由、そして全く別の角度から見た自由」である。エミールにとって重要なのは、「何に基づいて映画の切り口を決めるのか。現代的な子供の鼓動なのか？それとも自分自身の中にある子供の鼓動なのか？」というように、常に彼の物語の中心にいるのは人間なのである。



エミール・クストリツァ

1954年サラエボ生まれ。TVドラマの監督からスタートし、81年の『ドゥー・ユー・リメンバー・ドリー・ベル』でヴェネチア映画祭金獅子賞を受賞、長編映画の監督として幸先のよいデビューを飾る。2作目の長編映画『ババは、出張中!』(85)は、カンヌ国際映画祭パルム・ドール賞、更に、アメリカのアカデミー賞・最優秀外国作品賞にノミネートされる。『アンダーグラウンド』では2度目のカンヌパルム・ドール賞を受賞。ユーゴスラビア人の映画監督として、不条理な社会を感動的かつコメディタッチで描き、国際的に高い評価を受け、今最も独創的な映画監督の一人として知られている。最新作は、アルゼンチンの伝説的なサッカー選手マラドーナのドキュメンタリー『Maradona』。

『ライフ・イズ・ミラクル』(04)
『SUPER 8!』(01)
『黒猫・白猫』(98)
『アンダーグラウンド』(95)
『アリゾナ・ドリーム』(92)
『ジプシーのとき』(89)
『ドゥー・ユー・リメンバー・ドリー・ベル』(81)

HIVの両親と娘の、愛情と苦悩、そして再出発。

『アメリカのイエスの子ら』 JESUS CHILDREN OF AMERICA

監督：スパイク・リー／アメリカ

S T O R Y

ブルックリンに住むブランカは、お洒落にも敏感なティーンエイジャー。厳しいけれど愛情たっぷりの母と、兵役で負傷し今は飲んだくだけた優しい父と三人で暮らしている。携帯を買ってもらえない以外に不満なのは、いろんな薬を飲まされること。ある日彼女はその理由を知る。彼女の両親はHIV感染者の上、麻薬常習者、そして自分もHIVに感染していた。エイズ・ベイビーと呼ばれていじめにあうブランカ。しかし彼女に何の罪があるというのだろうか？ 最悪の状況にある家族の唯一の望みはそこに愛情があること。悩めるブランカは、ある保護機関の門を叩いた。



P R O D U C T I O N N O T E

トンネルの向こうには光があるということを伝えたい。

脚本家、監督、俳優、製作、そして教育者として活躍し、映画界における黒人の道を大きく切り開いてきたスパイク・リーは、数多くの経験から、この映画を作り出す着想を得た。彼は言う。「僕は世界中の子供たちがとても心配で、特に生まれながら HIV に感染している若者についていろいろと考えていた。これは地球規模の問題なんだ。そういう子供たちは、両親が事実を一切話してくれなかったらどうなるかを想像してみた。そして、彼らが自分の病気を知ったら、彼らの生活はどうなるのか。僕もこの企画を持ち掛けられた時はとても光榮に思い、嬉しかったよ。」

多様な映画を作り出してきた経験から、リーは比較的簡潔な方法でストーリーを伝えることができることを確信した。「僕はたくさん短編映画を撮ったけれど、この企画が特に難問だとは思わなかった。この映画はハッピーで陽気な映画ではないが、このテーマは話しておくべきものだと感じたんだ。結末でブランカが前向きになるところに、希望という大きなメッセージを盛り込んでいる。トンネルの向こうには光があるということを伝えたくてね。だが人間がエイズによって殺されていることは辛い事実だ。」そしてこう続ける。「僕は HIV に対する意識、特に子供たちへの啓蒙活動をしたいと考えている。この映画によって、子供たちの現状を人々に知ってもらいたい。」

本作の撮影は全てリーが育ち、現在も住むブルックリンで行われた。出演者についてはこう語る。「ブランカ役の少女、ハンナ・ホドソンは、僕の妹ジョーイが学校でドラマを教えているところでみつけた。それに僕は、マイケル・ジョーダンが出演したナイキのコマーシャルですでに彼女と仕事をすることがあったし、彼女以外にはこの役は成し得なかったよ。ロージー・ベレスもアンドレ・ロヨも素晴らしい俳優でうまくいくこともわかってた。それ以外の若い“出演者”は、ごく普通の学生たちだよ。」



スパイク・リー

1957年アメリカジョージア州生まれ。「スクール・デイズ」など、常にアフリカ系アメリカ人を取り巻く社会の現実を見せる作品を撮り続け、その洞察力に秘められた辛つな政治的メッセージに批評家は広く賞賛している。スパイク・リー監督作品に数多く主演しているデンゼル・ワシントンとは「ラストゲーム」、「インサイド・マン」でタッグを組み、「マルコムX」ではオスカーにノミネートされた。また「サマー・オブ・サム」(99)で初めて非黒人映画を製作し、同じく非黒人映画でエドワード・ノートンを主演に迎えた「25時」では高い評価を得た。

「インサイド・マン」(06)
「10 ミニッツ・オールダー 人生のメビウス」(02)
「25時」(02)
「ラストゲーム」(98)
「モハメド・アリ かけがえない日々」(96)
「クロックアーズ」(95)
「マルコムX」(92)
「ドゥ・ザ・ライト・シング」(89)
「スクール・デイズ」(88)

廃品を拾って自活する兄妹、今日も宝探しが始まる。

『ビルーとジョアン』 BILÚ E JOÃO

監督：カティア・ルンド / ブラジル

S T O R Y

エネルギー溢れる街サンパウロ。ファベラ(貧民街)に住むビルーとジョアンはまだ年端もいかない兄妹。鉄クズや段ボールなどゴミを集めては換金し、小銭を稼いで暮らしている。ある時どんなものが高値で売れるかを学んだ二人は、リアカーを借り、大都会に繰り出す。まるでレーシングゲームを楽しむかのように、道路を突っ走ってゆく。

市場で空き缶を集めたり、大人を手伝ってみたり、かれらの仕事(あそび)に定時はない。あつという間に夜が明け、そしてまた夜が更ける。今日も戦利品を持って腐材屋へ急ぐのだが、リアカーがパンクしてしまう。果たして二人はお金を手にすることができるだろうか。



P R O D U C T I O N N O T E

—この映画を見て可哀想なんて思わないでほしい。観客に感じてほしいのは、子供たちの力強さ。そしてそれを新たな視点で見ること。

カティアは、自分が選んだテーマについて説明する。「最近、私の住む街の周辺で、信じられないほど人力車が増えていることに気がついたので。サンパウロは人口二千万人の超近代都市なのに、子供、年寄り、そして健康な人でも、人間に相応しくない仕事で生計を立てている人がたくさんいる。長年このことを疑問に感じていて、人力車引きの立場に立ちたい、とずっと思っていたの。」リサーチを続けるうちに彼女は、子供たちは金を稼いでいるという誇りを持って堂々と仕事をしていることを知る。「ジョアン(役のアナウエイク)に出会ったとき、彼は中心街のマーケット近くで母親の紙集めを手伝っていた。ビルー(役のペラ)はリサイクルカートで街を走っていたわ。二人とも、閉店後の夜間に農家が果物を運んでくるマーケットの近くに住んで働いているの。スタッフがジョアンに“あの大きいカート、引っ張れるかい?”と質問したら、彼は誇らしげな笑顔で“勿論さ。自分のカートだって持っているよ。”と言って、実際に引いてみせた。彼はカートを引きながら、カメラに向かって“これ、僕のフェラーリだよ!”って言ってたわ。」しかし、同時に彼らの生きる社会の問題点も指摘する。「そびえたつ高層ビル群がファベラ(貧民街)を押し潰すのは時間の問題でしょう。私が疑問に感じるのは、子供たちが全て的手段と才覚を駆使したとして、そんな世界について行くことができるのだろうか、ということ。家を立ち退かされ、信じるものが壊れてしまったら?この世界経済に参加する手段すらないと知ったら?彼らのエネルギー、創造性の行き場は?働きながら夢を見て、前向きであり続けることが彼らにはできるのか?これは、社会全体の問題なの。誰もが居場所を見つけるために、私たちがその方法を模索し始めなければ、誰も幸せにはなれないでしょう。」

最終的にカティアがこの映画で達成したかったことは、「こういう子供たちの力と、世間が意識しないかあるいは普通は哀れむような生活を、新たな視点で見ること。」彼女は観客に哀れみの情を捨ててこの映画を観てほしいと力説する。「観客に思い出してほしいのは、ユーモア、エネルギー、創造性、そして登場する子供たちの途方もない個性だわ。信じるものが壊れたら、どれも失ってしまうものばかりだから。」



カティア・ルンド

1966年ブラジル・サンパウロ生まれ。96年、ブラジル・リオのスラム街で撮影されたマイケル・ジャクソンのミュージック・ビデオ「ゼイ・ドント・ケア・アバウト・アス」の撮影クルーを務める。その際、スラム社会、麻薬密売組織のボス、マスコミ、警察と接したことがきっかけとなり、スラム社会の映像化への知識を深め、02年フェルナンド・メイレスと共に、映画「シティ・オブ・ゴッド」の共同監督を務めた。同作品は最優秀ブラジルドキュメンタリー賞を受賞、エミー賞にもノミネートされ、日本でも大きな話題となる。ドキュメンタリー形式での撮影手法、プロの俳優でないスラム街の子供たちを起用することなど、そのスタイルがブラジルで広く認められている

- 【ゴールデン・ゲート】(02)
- 【シティ・オブ・ゴッド】(02)
- 【Minha Alma】(未・00)
- 【News from a Personal War】(未・99)



地球上で消えない紛争、彼らは生きるために助け合う。

『ジョナサン』 JONATHAN

監督：ジョーダン・スコット、リドリー・スコット/イギリス

S T O R Y

フォトジャーナリストのジョナサンは、戦地に赴いた際にうけたショックで幻覚にうなされ、人生と今の仕事に希望が持てずいた。現実逃避をしていたジョナサンは、森の中を散策していた。すると子供たちの声が聞こえてきた。その声を追いかけていると、なんと自分自身も少年の姿に戻ってしまう。そうして森で子供たちと遊んでいるうちにたどり着いたのは、家や車がくだけ散った戦場の焼け跡だった。戦火の中でも遅く生きる少年たちと遊ぶうちにジョナサンは、今までみえていなかった戦場のもうひとつのリアルを体感する。現実から逃げることをやめようと思った時、彼はまた大人の姿に戻る。そして少年たちと別れを告げ、自らの足で歩き出すのだった。



PRODUCTION NOTE

「子供時代は神秘的だわ。でも残念なことに、年を重ねるにつれ、魔法は消えて現実に支配される。子供の時は忘れたくても忘れられないのに。」

著名な父と一緒に初めて仕事をするジョーダン・スコットは、子供たちの強さと勇気に心を動かされてこの物語を書いた。彼女は「彼らはどんな状況をも変化させ、最悪の環境でも何とか切り抜かれる独特な力を持っている。子供時代は神秘的だわ。でも残念なことに、年を重ねるにつれ、魔法は消えて現実に支配される。子供の時は忘れたくても忘れられないのに。」と語る。

「それにこの映画では無気力も描いていると思う」とジョーダンは続ける。「本当に大切なことを無視したり、目を背けたりするのはとても簡単なことだわ。世の中に貢献することなど考えず何もしていないで終わるのは本当に簡単。この作品は、これまで大いに貢献してきたのに世間で大した役割を果たしていないと感じている男の物語。彼はジャーナリストとしての仕事を続ける理由が見えなくなるほど多くの苦痛を目撃してきた。でも結局、彼は出会った子供たちのおかげで、先に進むことを選ぶの。」

ジョーダンは子供時代への賛辞に加え、本作を戦争カメラマンに寄せる抒情詩にしたかったという。「戦争についてニュース報道を見たし読んだりしても、全てを語っている写真を見た時と同じ衝撃はないわ。でも彼らは、本当に個人の多くのものを犠牲にしている。彼らの多くが、自分のために生きるのか、あるいは仕事のために生きるのか、という選択に直面しているのではないかと思う。」ジョーダンは父親と仕事をする機会を得たことを喜んだ。「私が脚本を書き終えてからの父は、共同監督というより師匠みたいな役割を果たしていたわね。その方がやりやすそうだったし、全てがとてうまく運んだわ。実は早速、別のプロジェクトでも一緒に仕事しよう、って話しているの。」

最後に出演者についても「子供って本当に偉大な小さな俳優ね。彼らには本当に際立った個性があった。彼らの個性が作品の中で輝いているわ。」



ジョーダン・スコット

ロンドン生まれ。リドリー・スコットの一人娘として、父親同様20代前半からイギリスを中心に映像業界に携わり、男性が大半を占める分野で着実に活動の幅を広げている。99年、政府による資金援助を得て新規制の必要性を語るプログラム「プロジェクト・エグザイル」に関する一連の公共広告で監督を務め、その影響が絶大だったため、クリントン大統領が自らキャンペーンの成果を公に称賛した。またスコットが手がけたカット・ルックのミュージック・ビデオ「フリーズ」がヨーロッパで大ブレイクし、エルトン・ジョン、スパイス・ガールズ、ジョー・コッカーといったアーティストたちのミュージック・ビデオ制作を中心に広く活動している。

「Portrait」(東・04)
「Never Never」(東・02)



リドリー・スコット

1937年イングランド生まれ。イギリスの公共放送BBCの番組制作を経て制作会社を設立、2000本以上のCFを製作し、広告業界で非常に高い評価を受ける。その後、映画界に進出し、「デュエリスト」(決闘者)でカンヌ国際映画祭新人監督賞を受賞。その後、「エイリアン」、「ブレッドランナー」(82)などで、卓越した近未来描写と映像美に多くのファンを獲得する。さらに、「グラディエーター」、「ハンニバル」など様々なジャンルを手がけ、ハリウッドの巨匠監督として、確固たる地位を築いている。

「マッシュスティック・メン」(03)
「ハニバル」(01)
「ラングニーク・ダウン」(01)
「グレイエーター」(00)
G.S. ショーン(87)
「アック・レイン」(89)
「エイリアン」(79)
「デュエリスト」(決闘者)(77)

大人たちと互角に渡り合う、窃盗も辞さない子供たちの夢と現実。

『チロ』 CIRO

監督：ステファノ・ヴィネルツォ/イタリア

S T O R Y

少年チロはナポリ郊外からやって来た。街に巣食う大窃盗団の庇護の下で、金持ちから高級品を盗んで生活している最下層の一人だ。相棒と一緒に、白昼堂々高級車の窓ガラスを割っては、運転していた男からロレックスを奪い取る。それをお金に交換するために彼らが向かうのはボスが運営している移動遊園地。一丁前にボスと張り合い交換ビジネスをやりあう。盗みは悪いことだし、こんなことをしても楽しくないことは知っている。それに自分はまだまだ子供だってこともわかっている。だから彼らはいつも遊園地の閉園後、ボスを訪ねるのであった。ボスにさざやかなお願いをするために。



P R O D U C T I O N N O T E

「子供が絶対に見るべきじゃない悲惨なものを見ている子供たちはたくさんいる。そして悲しいことに社会の状況は一向に良くならない。怒りで満ちた彼らの瞳が僕を変えさせた。」

物騒な街ローマでの少年時代が、ヴィネルツォにこの物語の着想をもたらした。「僕はこんな環境で育ったから、こういった場所で育つことがどんなに困難かが分かる。毎日が危険の連続だ。子供が絶対に見るべきじゃない悲惨なものを僕はたくさん見てきた。そして悲しいことに状況は、悪化の一途を辿っている。クールな服が着たい。だからポケットには使いたいときに使えるお金をいつも持っていないきゃいけない。子供たちも立派な消費者にならざるを得ないんだ。あそこに行くと、怒りで満ちた彼らの瞳を見るとゾッとする。そんな眼差しが僕を変えさせたんだ。」

ヴィネルツォは、「チロ」のキャスティングを始めるとき、最高の演技ができるのはナポリの街角にいる本物の子供たちではないかと考えた。「もし僕が担当する物語のどこが素晴らしいかを言わせてもらえれば、それはこの子供たちにほかならない。」と言う。子供たちが本作出演になぜ魅了されたのか？ヴィネルツォはこう答える。「僕が思うに、これは彼らの夢なんだ。何の基盤も持っていない彼らに、僕は時々本を送り、その本について話をすると約束をした。彼らも何か言わなくてはならない。そして意見交換するたびに僕はまた別の本を送るんだ。」

ヴィネルツォはアメリカのUCLAとAIF両校に在籍し、そこで製作パートナーであるキアラ・ティレシと出会った。「キアラがこのアイデアを思いついてから2秒と経たないうちに僕に電話をくれて、僕もすぐさま魅了された。僕にとっては自分の考えを表現するチャンスというだけでなく、著名な監督たちと一緒に仕事をする素晴らしいチャンスでもあった。」

そして撮影のヴィットリオ・ストラオーロ（『地獄の黙示録』(79)、『ラストエンペラー』(87)、『ディック・トレイシー』(90)他）については、「在学中、ストラオーロ本人と彼の素晴らしいキャリアについての書物はできる限り読んでいた。だから、このプロジェクトで一緒に仕事ができると知ったときは、僕の人生のなかで最高にエキサイティングな日だった。彼はこの映画の背景にある全てのアイデアをとても気に入って、脚本が良ければ一緒にやると言ってくれたんだ。だから僕は、できる限りたくさんのディテールを盛り込んで、脚本の仕上げに取り掛かった。そしてそれをヴィットリオに送り、その直後に僕らは電話で話をした。そして彼はこう言ったんだ、「やるよ。一緒にナポリに行こう」と。あれはなんとも言えない瞬間だった。」と語る。「何か世界を大きく変えようなんてポーズをとっているわけではない」と付け加える。「でもこのプロジェクトに対して僕が希望を抱き、大きな志を持つことで、人々にこういった問題を思い出してもらい、僕たちひとりひとりに何が出来るか、そして何かすべきだと思ってもらうことを願っている。」



ステファノ・ヴィネルツォ

1968年生まれ。アカデミー賞受賞作で知られる『イル・ポスティーノ』(94)の共同監督・主演を務めたマツシモ・トロイージの甥として、彼から指導を受ける。その後、00年に映画『キヤング・オブ・ニューヨーク』でマーティン・スコセッシの助手、『パッション』(04)ではメル・ギブソンの助手を務めるなど、大作映画に携わる機会に恵まれる。01年、3作目の短編映画で、マリア・グラツィア・クチノッタ主演・ユニバーサル制作の『Strani Accordi』を監督し、イタリアでは短編映画としてはじめて上映館が100館を超え、商業的に大成功を取った。本作品ではキアラ・ティレシ、マリア・グラツィア・クチノッタ、ガエタノ・ダニエレと共に、全ての制作も担当。本作のために歌われたティナ・ターナーとイタリア人歌手エリザの楽曲のミュージック・ビデオの監督も担当。

『Strani Accordi』(未・01)
『Im Sophie and You?』(未・98)

路上で働く孤児と愛に飢えた少女。それぞれの悲しみと希望。

『桑桑(ソンソン)と小猫(シャオマオ)』

Song Song & Little Cat 監督: ジョン・ウー / 中国

S T O R Y

裕福だが、いがみ合う両親のもとで暮らす寂しい目をした桑桑(ソンソン)は、母親に怒られお気に入りのフランス人形を車の窓から捨ててしまう。そこに偶然通りかかった貧しい老人と一緒に暮らす孤児の小猫(シャオマオ)のために捨てられた人形を持ち帰った。彼女は大喜びし、より一層育ててくれたおじいさんを孝行しようと思うのだった。そんなある日、おじいさんは市場でのゴミ集めの最中にトラックに轢かれてしまう。再び天涯孤独の身になってしまった小猫は、子供を集めてこき使う親方の下で花売りの仕事をさせられることに。それとは対照的に裕福な桑桑の母親は、愛のない生活に疲れ果て自殺を考えていた。ある時、あのフランス人形が少女二人を不思議な運命で引き合わせ、その出会いは再び二人の子供の命を輝かせるのであった。



P R O D U C T I O N N O T E

—我々は世界の子供たちを救う話をしているが、本当は子供たちが我々を救っているのだ。彼らの強さと愛が世界を変えていこう。

この企画に参加する動機をウーはこう説明する。「ちょうど『バイチェック 消された記憶』を撮っていた頃、友人がこの企画を紹介してくれた。僕は常に子供達の役に立てる事をしたくて心がかけているので、とても興奮したんだ。そして一年後MKフィルムプロダクションから正式に話があったとき喜んで受けることにした。」

この作品はジョンにとって初めての、中国本土での撮影となった。「素晴らしい体験だった。我々とスタッフは大いに知識を交換し合ったよ。家族のように仕事をした。彼らが僕をよそ者扱いすることはなかった。世界中の誰もが本質的には一緒なんだと思ったよ。みな素晴らしい物語を伝えたいという情熱をもっている。」と熱く語る。

そしてこう続ける。「この短編映画は原点に戻り、自分が感じるままに撮影した。駆け引きや巨大スタジオも関係なく、実に多くのメッセージを短時間で送り出すことができた。」

「人々の中には子供を大人とは違うと考える者もいるが、子供も大人同様意志と尊厳を持っている。僕は子供たちの心の中で何が起きているのかを探究してみたかった。特に非常に多くの文化的、経済的変化が起きている中国で、子供たちがそういうことについてどう思っているのかを知りたいと思った。」

配役にあたり、ウーは当初女優ではなく「本物の少女」を起用したいと考えていた。「だが大勢の少女達と面接を重ねていくうちに、それが不可能だという事に気づいた。そんな中、北京にいるプロデューサーのリー・シャオファンとリー・シャオワンが、少女たちに極めて似た境遇にある、二人の聡明な少女を見つけてきた。桑桑役のザオ・ツークンはテレビでの演技経験があった。裕福な家庭に生まれ、とても上品で落ち着いた。小猫を演じるチー・ルーイーには未開の才能がある。貧しい家庭に生まれ辛い人生を歩んできたが、とても強い。この映画は彼女達自身の物語を伝えるものでもあるから、二人共リアルに演技できたのだと思う。」そして「二人の少女は実に愛くるしくかわいかった。僕をおじいちゃんと呼んでいたよ。撮影の合間にゲームをして遊んだりしたが、まるで自分の孫と遊んでいるようだったよ。」と説明する。

最終的に伝えたかったメッセージは希望だとウーは語る。「世界中の子供たちの希望を表現したかった。我々は子供たちを愛し慈しむ事の大切さを知っているし、彼らにはそれが必要だということも知っている。同時に、子供たちもお互いを慈しむ必要がある。この二人の少女は葛藤しながらも勇気と尊厳を通して自分達自身の強さを見つけ出す。我々は世界の子供たちを救う話をしているが、本当は子供たちが我々を救っているのだ。彼らの強さと愛が世界を変えていこう。」

ジョン・ウー
1946年中国広州生まれ。80年代半ばまでは、主にコメディ映画専門として知られていたが、チョウ・ユンファ主演の『男たちの挽歌』、及びそのシリーズ作でロマンスとバイオレンスあふれる見事なギャング映画を次々と手がけ、中国国内では自国の映画産業の繁栄に大きく貢献した。その後、ジャン・クロード・ヴァン・ダム主演の『ハード・ターゲット』(93)で、アメリカにおける長編映画デビューを果たす。ハリウッドでの3作目、ジョン・トラボルタ、ニコラス・ケイジ主演『フェイス/オフ』で世界中の批評家から傑作として称賛され、トム・クルーズ主演の『MI-2』を監督し、いまやハリウッドで活躍するアジアの監督として定着してはならない存在である。

『バイチェック 消された記憶』(03)
『ウィンドトーカー』(02)
『MI-2』(00)
『フェイス/オフ』(97)
『ブローケン・アロー』(96)
『男たちの挽歌』(86)



ひとりひとり、 かけがえのない個としての子供。 生きる力に圧倒される。

川本三郎（評論家）

学校でエイズ・ペイビーといじめられていたブルックリンの少女が苦しんだ末に最後、保険センターに行く決心をし、そこで同じようにHIVに苦しむ若者たちの会に加わり、彼らが明るく自分の名前を言うのを聞いて、自分も力強く言う。「私はピアンカです」。その、涙を振り払った表情を正面からとらえた第三話「アメリカのイエスの子ら」は静かに終る。

自分の名前を言う。このとき、少女は、「エイズ・ペイビー」でもなく、「ブルックリンの貧しい黒人家族の子供」でもなく、世界にたったひとりしかない、自分「ピアンカ」になる。ここにかなしい希望がある。

この映画で描かれる子供たちは、いわゆる「インビジブル・チルドレン」（見えない子供たち）だ。社会のなかでその存在が認められていない。その他大勢でひとくりにされてしまう。彼らの名前など誰も気にとめない。たとえ死んでも、その名前が記憶されることはないだろう。「死傷者十人」とか「百人」とかただ数字でカウントされるだけで処理されてしまう。

しかし、彼ら「見えない子供たち」にもひとりひとり、かけがえのない生がある。喜びと悲しみがある。そのかけがえのなさが名前に託されている。

第一話のタイトルは「タンザ」、第四話は「ブルーとジョアン」、第五話の「ジョナサン」の場合は大人だから事情は異なるが、第六話は再び「チロ」、最後の第七話は「桑桑（ソソソ）と小猫（シャオマオ）」といずれも子供たちの名前をタイトルにしている。作り手が名前を大事にしていることがわかる。

「ストリート・チルドレン」とか「孤児」とか「エイズ・ペイビー」とかではなく、あるいは「インビジブル・チルドレン」でさえなく、子供たちをその子供だけが持っている大事な名前と呼ぶ。そこに作り手たちの、子供たちをかけがえのないひとりとしてとらえようとする強い意志がある。

幼い身体で銃を持ってゲリラとして戦うルワンダの少年は、仲間たちから何度も「タンザ」と呼ばれる。彼は「少年ゲリラ」としてではなく「タンザ」という個として生きてゆくことがわかる。それに比べ、敵に銃で撃たれ「今日、僕は怖かった」といって死んでゆく少年は名前がないのが痛ましい。

名前を大事にする。それは、何十億人も人間が住むこの地球で、「きみはひとりしかないのだ」という作り手たちの子供たちへの励ましである。

世界はいま子供たちに残酷である。戦争、不治の病、貧困……がむきだしの暴力になって子供たちに襲いかかる。それに対し、子供たちは自分の力で自分の身を守らなければならない。▶



第四話の「タンザ」は、スーダンのサンバワロに住む幼い死と妹が麻品を集めながらなんとか自力で生きているように子供たちは、全世界を相手に銃を手にした者の力で、生き残るための戦いを行う。実に深い。第二話の「ブルー・ジブシー」の少年マルヤンも第六話「チロ」の孤児は、泥棒であるが、それが生きるための必死の戦いである限り肯定される。盗みはいけないという市民的モラルは彼らの過酷な日常の前では通用しない。

ブラジルのストリート・チルドレンを描いた「シティ・オブ・ゴッド」をはじめ、戦争で傷ついたクルド人の子供たちの物語「亀も空を飛ぶ」、エルサルバドルの十二歳の少年たちが銃を取って戦わざるを得なくなる悲劇「イノセント・ボイス 12歳の戦場」など、このごろ、極限状況のなかでそれでもなお必死に生きようとする子供たちを描いた大事件が多い。

世界の矛盾が子供たちに集中しているからだけではないだろう。懸命に生きている子供たちの姿がわれわれ大人を圧倒するからだ。よく言われる「子供に教えられる」とか「大人が子供を育てるのではない、子供が大人を育てるのだ」といったことは違う。

いちばん苦しんだ者がいちばん輝く。苦しみのなかにいる子供たちの顔が実にいいのだ。「タンザ」の、命令によって自分が学んだ小学校に爆弾を仕掛けるために夜、ひそかに忍び込んだタンザが、懐かしさを込めて黒板を見るとき顔、ブラックな笑いにあふれる「ブルー・ジブシー」の、結局はまた元の少年院に戻って安堵したマルヤンの笑顔、「ジョナサン」で、フォトジャーナリストが幻想のなかで出会う戦火のなかで生きる子供たちの生き生きとした笑顔。そして、最後の「桑桑（ソソソ）と小猫（シャオマオ）」で小猫を演じている女の子の笑顔には圧倒されざるを得なかった。

彼らの決然たる顔は、大人たちのやわな同情もヒューマンイズムも容易に受け付けない。もうわれわれとは生きる場所が違う、大仰に言えば彼らは、われわれとは次元の違う聖なる存在になっている。

「シティ・オブ・ゴッド」「亀も空を飛ぶ」「イノセント・ボイス 12歳の戦場」もそうだったが、この映画も「子供たちがかわいそう」「子供たちを救おう」といった、子供たちを見下ろすような立場から論じるのはやめにしたい。聖なる子供たちは、われわれなど思いもしない生きる力を持っている。

長いあいだ子供の福祉のために働いたアメリカの女性絵本作家マリー・ホール・エッソンの名作絵本「またもりへ」のこんな言葉を思い出す。

父親が幼い息子にこんなことをいう。「おとうさんだって、ほかになにもできなくてもいいから、おまえのようにわらっていたよ」（エッソ、まさき・るりこ訳「またもりへ」＜福音館書店、69年＞）

『それでも生きる子供たちへ』企画から参加した 2つの国連機関のとりくみ

財団法人 日本ユニセフ協会について

映画『それでも生きる子供たちへ』に登場する子どもたちの姿には、いま世界でユニセフが取り組んでいる子どもたちの問題—貧困、搾取、紛争、HIV/AIDSといった問題が、鋭い視点で映し出されています。ユニセフは、世界の子どもたちの命と健全な成長を守るために活動している国連機関です。子どもの権利を擁護する主要機関として、世界156の国と地域で、水と衛生、保健サービス、栄養改善、教育などの支援をしています。世界では、今も3秒に一人、幼い子どもがその尊い命を落としています。学校に行くことができない子どもは、1億1,000万人以上、HIV/AIDSによって親を失った子どもは1,500万人にも上っており、こうした子どもたちの支援には、国際社会のさらなる理解と協力が不可欠です。本映画は、企画の段階からユニセフが関わった非常に貴重な作品です。本映画を通じて、世界の子どもたちを取り巻く問題、そして子どもにふさわしい世界について、多くの方と考えていただければ幸いです。

ユニセフに関するお問い合わせ：(財)日本ユニセフ協会 広報室 Tel. 03-5789-2016

WFP 国連世界食糧計画について

現在、世界の人口のおよそ7分の1にあたる8億5千万人が栄養不足や飢えに苦しんでいます。そのうち3億5千万人が子どもたちです。飢えが原因で、5秒に一人、子どもが命を落としています。そんな世界を変えるべく活動しているのが、WFP 国連世界食糧計画、国連唯一の食糧援助機関であり、かつ世界最大の人道援助機関です。紛争や災害発生時の緊急事態に食糧を届けることや、食糧援助を通じて中長期的に社会の発展を手助けすることを目指しています。2005年は、およそ世界80カ国で1億人に食糧援助をしました。WFPの活動の柱の一つは学校給食です。学校で給食を出すことで子どもたちを学校に呼び寄せ、教育を受けさせるといふものです。約20円で、1食分の学校給食を配給できます。食糧を通じて、未来を届けたい—これがWFPの願いです。

詳しくはホームページをご覧ください。(http://www.wfp.or.jp/)

お問い合わせ：特定非営利活動法人(認定NPO法人)国連WFP協会 Tel. 045-221-2515 Fax. 045-221-2534

S T A F F & C A S T

製作
マリア・クラツィア・クチノッタ/キアラ・ティレス/ステファノ・ヴィネルツ
PRODUCED BY MARIA GRAZIA CUCINOTTA / CHIARA TILES / STEFANO VENERUSO
テーマソング
「ティーチ・ミー・アゲイン」 ティナ・ターナー&エリザ
THEME SONG 「TEACH ME AGAIN」 PERFORMED BY TINA TURNER and ELISA

「タンザ」 TANZA
監督/脚本: メディ・カレフ
WRITTEN AND DIRECTED BY MEHDI CHAREF
撮影: フィリップ・ブレロー
CINEMATOGRAPHY BY PHILIPPE BRELOT
製作総指揮: ブリュノ・オダウベル
EXECUTIVE PRODUCER BRUNO HOUBEERT
出演: ビラ・アダマ/ハノウラ・カレレ
ADAMA BILA / HAROUNA OUEDEHROGO

「アメリカのイエスの子ら」 JESUS CHILDREN OF AMERICA
監督: スパイク・リー
DIRECTED BY SPIKE LEE
脚本: サンキ・リー/ジョーイ・リー
SCREENPLAY BY CINQUE LEE/JOIE LEE
製作: スパイク・リー/マイク・エリス
PRODUCED BY SPIKE LEE/MIKE ELLIS
製作総指揮: サンキ・リー/ジョーイ・リー
EXECUTIVE PRODUCER CINQUE LEE/JOIE LEE
出演: ローザ・ベレス/ハンナ・ホドソン/アンドレ・ロシ
ROSIE PEREZ/HANNAH HOODSON/ANDRE ROYO

「チロ」 CIRO
監督: ステファノ・ヴィネルツ
DIRECTED BY STEFANO VENERUSO
脚本: ディエゴ・デ・シルヴァ/ステファノ・ヴィネルツ
SCREENPLAY BY DIEGO DE SILVA / STEFANO VENERUSO
撮影: ヴィットリオ・ストラーロ
CINEMATOGRAPHY BY VITTORIO STORARO
製作総指揮: フランコ・ラッパ/ラファエーレ・ヴェネッリ
EXECUTIVE PRODUCER FRANCESCO RAPA / RAFFAELE VENERUSO
出演: ダニエリ・ヴィコリト/エマヌエーレ・ヴィコリト/
マリア・クラツィア・クチノッタ
DANIELE VICORITO/EMANUELE VICORITO / MARIA GRAZIA CUCINOTTA

「ブルー・ジプシー」 BLUE GYPSY
監督: エミール・クストリツァ
DIRECTED BY EMIR KUSTURICA
脚本: ストリボール・クストリツァ
SCREENPLAY BY STRIBOR KUSTURICA
撮影: ミロラド・グルシカ
CINEMATOGRAPHY BY MILORAD GLUSICA
作曲: ストリボール・クストリツァ/ゾラン・マリヤンović /
ドラガン・ヤニク/ノースモーキングオーケストラ/
ドラゴン・スロヴァク
MUSIC BY STRIBOR KUSTURICA/ZORAN MARIJANOVIC/
DRAGAN RADJEVIC/NO SMOKING ORCHESTRA/
DRAGAN ZUROVAC
製作総指揮: エミール・クストリツァ
EXECUTIVE PRODUCER EMIR KUSTURICA
出演: ウロス・ミロヴァノヴィッチ
UROŠ MILOVANOVIĆ

「ブルー・ジョアン」 BLU E JOÃO
監督/脚本: カティア・ルンド
DIRECTED BY KATIA LUND
撮影総指揮: トカ・セアブラ
CINEMATOGRAPHY BY TOCA SEABRA
製作: カティア・ルンド/ファビアーノ・ガレーノ/
カイト・ガレーノ/デボラ・イヴァノフ/リカルド・アルター
PRODUCED BY KATIA LUND/FABIANO GULLANE/
CAIO GULLANE/DEBORA IVANOV/RICARDO AIDAR
出演: フランシスコ・アウヴェイク・デ・フレタス/ペラ・フェルナンデス
FRANCISCO ANAWAKE DE FREITAS/VERA FERNANDES

「鳥籠 (ソング) と小籠 (シャオマオ)」 SONG SONG AND LITTLE CAT
監督: ジョン・ウー
DIRECTED BY JOHN WOO
脚本: リー・チン
SCREENPLAY BY LI QIANG
撮影: ゼン・ニンピン
CINEMATOGRAPHY BY ZENG NIANPING
製作: テレンス・チャン/リー・シャオワン/リー・シャオワン
PRODUCED BY TERENCE CHANG/LI SHAOHONG/LI XIAOWAN
出演: ゼン・ワーワン/チー・ルイー/ジャン・ウエンリノ/
ワン・ビン/ヨウ・ヨウ
ZHAO ZHENWANG/RUYIJIANG WENLI / WANG BIN/YOU YONG

「ジョナサン」 JONATHAN
監督: ジョーダン・スコット/リドレイ・スコット
DIRECTED BY JORDAN SCOTT/RIDREY SCOTT
脚本: ジョーダン・スコット
SCREENPLAY BY JORDAN SCOTT
撮影: ジェームス・ウィテカー
CINEMATOGRAPHY BY JAMES WHITAKER
製作総指揮: ジュール・ダリー/カイリュ・シオン
EXECUTIVE PRODUCER JULES DALY/KAI-LIU HSUING
出演: デヴィッド・シュールス/ケリー・マクドナルド/
ジョーダン・クラーク/ジャック・トンソン/ジュシェア・ライト
JORDAN CLARKE/JACK THOMPSON/JOSHUA LIGHT

制作/配給: キヤコ・コミュニケーションズ SAGA 株式会社
宣伝: キヤコ宣伝 [CIC] x maison ことば bureau
後援: 財団法人日本ユニセフ協会、WFP 国連世界食糧計画、イタリア大使館
原簿: All the Invisible Children/2005年/イタリア、フランス映画
上映時間 130分/ビスタ/ドルビーデジタル/カラー/字幕訳: 関 美希/BS3
kodomo.gyao.jp © 2005 MFC FILM PRODUCTIONS SpA/MAISON SAGA
お問い合わせ
maison ことば bureau TEL 03-5452-2044
キヤコ宣伝 部 TEL 03-3509-7505
キヤコ関西支社 TEL 06-6341-2181
キヤコ中部支社 TEL 052-953-5175
キヤコ九州支社 TEL 092-736-1416

「大人は誰も、昔は子供だった。でも、そのことを忘れずにいる大人はほとんどいない。」